

# 山梨県 桃の会

会報 第108号

## 命の尊厳

あたかも書き損じた紙くずを捨てるように  
道端の石を蹴散らすように  
黒板に書いた文字をさっと消すように  
すぐに取り替えられる消耗品のように  
たった一つの命がまるで薄っぺらい紙切れのように扱われると  
心がたまらなく苦しい、命より尊いものがあるのだろうかと・・・  
豊かで平和な日本、なのになぜ命の尊厳が揺らいでいるのだろう  
一人一人が未来へと繋がり続けるかけがのない存在だから  
私たちは本能的に命の重さ、尊さを知っているはず



とてつもなく長い長い人類の歴史の中で  
繋がり続けた命、その中の一つが今の自分  
それは「生きるための命」が大事に守られ続けた証  
何一つ粗末に失って良いものなどない  
本当に守るべきものを見失ってはならない

出会う、つながる、わかちあう

KHJ 全国ひきこもり家族会連合会 山梨支部

HP <https://momonokai.org> e-mail [meri-sannokuni@softbank.ne.jp](mailto:meri-sannokuni@softbank.ne.jp)

# ピア Voice



\*\*\* 継続を力に \*\*\*

## 10年では足りない

この10年でひきこもりに対しての受け止め方や支援のあり方は少しずつではあるが変化してきている。しかしひきこもり家族会としての桃の会設立10年は、10年も・・・という感覚ではなく、まだまだ10年と感じる。なぜならひきこもる人にとっては10年はあっという間に経過するし、その状態が1~2年で何とかなるものではないからだ。ある日突然ひきこもったとしてもその日まで彼らの中に少しずつ、少しずつ長い時間をかけて蓄積していくものがあったからなのだ。決して突発的に起こったことではない。社会は10年で様々に変化していくが、ひきこもる人たちはずっと同じ状態で変わっていないということが現実起きる。もし変化が見られたとしても生まれ変わったように、今までの事が嘘のように変化するわけではなく継続的なサポートは必要と感じている。

内面は変わらなくても肉体は確実に年をとり体力の衰えは避けられないのが悲しい。

## 途切れないリレーを

8月に講演頂いた上田理香さんは10年以上わたりKHJ家族会の事務局（現事務局長）として全国の家族会と関わりサポートを続けて下さっている。講演後継続の力となるものは何かをお尋ねしたところ悲しい結末を選ばざるを得なかった若者との出会いが継続の力になっているということであった。命を守れなかった無念さはこの活動に深く向き合えば向き合うほど強くなられたであろう。継続の力になるものは計算されたものではない。言葉にはいい表せない突き動かされるような覚悟のようなものが需要だと思う。KHJ本部も上田さんのような強い想いを受け継ぐ次の人にバトンを、そしてまた次へと、途切れないリレーを展開して欲しい。

## 想いをバトンに込めて

10年、20年と時間を必要とするひきこもりの対応だから桃の会のメンバーも段々年を重ねる。今の社会を見ていると会の存続はまだまだ何十年も必要であろう。

次世代から次世代へ終わりのないリレーになるのかもしれないが、このバトンの重みはずっしりと重いのだ。だから次世代にバトンを託する私たちの役割もまたかなりの重さとなるのである。



## 第二回 記念講演 「全世代のひきこもりを考える」 上田理香氏

### KHJ 本部の活動と実態調査から

上田さんと初めてお会いしたのは10年前の8月でした。9月に行われた初めての家族の会合でグループに分かれ話し始めるとみんなの想いや言葉が溢れだし止まらない、その時ファシリテーターをされていた上田さんは聴くことに徹しながらも混乱状態にあるみんなの話の交通整理を見事にされていたのがとても印象的に思い出されます。今回の講演はKHJ本部の活動と実態調査から多くの情報を頂きました。全国の家族会との関われる中でこそその想い、国へひきこもり施策の提言も根気よく続けて頂いていること言葉の一つ一つが重く心に響くものでありました。

今回、講演会レジュメの中から一部の掲載です。その他の内容は記念冊子に掲載させていただきます。

#### ひきこもり支援は引き出す支援ではない

「正論、正そうとする」ことが本人を追い詰めていく。ひきこもっていること自体が問題ではなく、SOSが出せず誰とも関わりがないことが問題。生きていくためにひきこもること以外選択出来なかったから、その選択を否定されると生きようとしてきた自分自身を否定することになる。社会に当てはめ、引き出そうとすることが目的ではない。個々にあった支援を継続的に行い、ひきこもる状況に至る迄の痛みや苦悩、不安を感じ取れているか真摯に理解しようとすることで信頼関係を構築する事が不可欠である上田さん御自身、仕事ができなくなり苦しみひきこもっていた時期、お母さんの「ただ生きてくれてるだけでそれだけでいい!」という必死の叫びのような言葉に励まされ支えられたという貴重な体験も話された

#### ひきこもりを生む社会的要因

1990年代から非正規雇用が増加(9割)、自営業が減り(1割)組織に合わせる働き方が増え一度つまずくとやり直しがきかない、即戦力を求められフォローや特性に応じたサポートがないなど、働かないではなく多様な生き方、働き方の仕組みがない。サービス業が7割を超え人間関係を求められると就労のハードルが高くなり意欲の低下の一因になる。働くことは当たり前、努力次第で・・・など世代間の価値観の相違も大きい。

KHJの実態調査で就労意欲のある人は7割以上に上る。反面、職場での傷つき体験が深刻なトラウマとなってしまう方が数多くいることがわかった。半数がいじめ、パワハラ、暴言、暴力、叱責、非難出来ないことや仕事が遅いことを執拗に責める、上司や同僚とのコミュニケーションがうまくいかずに孤立、空白期間や過去の職歴、職場の長時間労働、人権侵害に当たる問題も少なくない。

自己認識調査では(15才~39才)今の自分を変えたいと思う人は75.7%、反面努力しても希望の職業にはつけないと思っている人も61.1%、その背景に「うまくいくかわからないこと→過去の失敗による叱責、傷つき体験」を考える人が63.9%にも上るなどチャレンジしたくても諦めざるを得なくなる社会的状況があるのだろう。

#### ひきこもり基本法の必要性

ひきこもりに特化した法律がなければ、「甘えや怠け」といった社会的偏見から助けを求められず、支援からこぼれ落ちる当事者 家族は必ず存在する。実際は家族、本人だけで何とかしようと努力した結果様々な障壁からどうにも変えられない現実に、生きる意欲を失っている場合が多い。自己責任、家族責任というレッテルではなく社会でもう一度やり直せるチャンスが必要である。ひきこもりながらも困った時は助けを求め、生き続けていい保障と、親亡きあとも本人が生き続けるための法制が必要である。

# 当事者 Voice



**当事者スペースの報告** 8月20日(日) 13時~15時 ぴゅあ総合2F会議室

参加者：当事者・経験者(6名) 桃の会関係者(1名)

## \*スペースにおける内容

今回もぴゅあ総合2階の会議室を会場に当事者スペースを開催しました。チェックインでは、「最近、何か変わったことはありましたか?」とのテーマで皆さんが話していききました。県内の居場所のことに  
ついて情報交換をしました。過去はやっていたけど、今はどうなのだろうとか、現在の居場所の状況・  
情報が必要だなと感じました。今の暮らしについての話しが出されまして、そこからお金を欲しいですか  
稼ぎたいですかとの話しに展開、そして性・恋愛についての問題や考え方・希望に関する様々なこと  
について話し合いました。

また、行ってみたい所、買いたいものはありますか? 近況についての話しもありました。

## \*世話人たちの感想(今回は1名)

本日も様々な話しが出ました。午前中の記念講演会の中でも出されました。

「メタバース居場所」についても話題となりました。当事者スペースの参加者の方々の中でも、居場所  
での活動・参加を求める声は常にあります。例年、猛暑の夏は当事者スペースの参加者も少ないことが多  
かったのですが、けっこう参加者がありました。

報告 米長



**テーマトークの報告** 8月12日(土) 福祉プラザロビー



## ◎ テーマ『自分らしく生きるには』

◎ 参加人数：6名(当事者3名 親3名)

いつもお世話になっております。世話人のたきざわです。

今回のテーマはなかなかハードでコアな内容でした。皆さんと意見を交わす中で、それぞれにある  
“自分らしさ”を少しずつ、一つ一つ吐き出しながら、改めて自問自答をじっくりできた時間になれた  
ことと僕は思います。

自分を知るためには、やはりこうした人と人との関わりの中で気づき合えることなのではないでしょうか

## \*\* 9月の活動日程

- ▶ **当事者スペース 9月17日(日) 13時~15時 甲府総合市民会館 会議室4 参加費無料**  
フリートーク・・・日々の出来事や感じたこと、様々な想いを自由に話します。
- ▶ **テーマトーク 9月9日(土) 13時~15時 福祉プラザ1Fロビー**  
テーマ『社会に対する不安』 お申込み不要です

## ▶ 内閣府ひきこもり実態調査から (2022)

\*\*\* 相談したくない (できない) 理由 \*\*\*

### ◆ 誰にも相談したくない

15歳～39歳 22.9%      40歳～64歳 18.1%

#### ◇ 全世代共通

相談してもうまく自分の状況を伝えられないし、自分の状況や気持ちを理解してもらえないだろう

「相談しても解決出来ないと思うから」 51.5%

「自分一人で解決すべきだと思うから」 21.2%

#### ◇ 世代別

15歳～39歳 「相手がどんな人かわからないから」 27.3%

「相手にうまく伝えられないから」 24.2%

40歳～69歳 「嫌なことできないことを言われそう」 25%

「誰にも知られたくない事だから」 21.4%

「裏切られたり、失望するのが嫌だから」 21.4%

### ◆ 親亡き後のセルフネグレクト・・・ 重い人ほど助けを求められない

ひきこもり死(孤立死) 助けを求めた方 15.6% (NHK 2020)

「直接の死因は病死や自殺が多いが、長年のひきこもり状態で、自分のひきこもり状態を維持する気力を失ってしまう。長年働いていないことへの負い目や引け目があること、近くに親戚や親しい人もおらず、“助けて欲しい” と言い出せなかった」

「社会の役にたっていないのに、人の手をかりることはできない」

「人に迷惑をかけてまで、生きたいと思えない」

「公的サービスに世話になるのは社会に申し訳ない」

8050世帯→その後の孤立→自分の命を守る意欲自体が低下(自己放任→セルフネグレクト)

(上田さん 講演会資料から)

\*\*\* . . . . .



“みんなでひきこもりラジオ”

NHKラジオ第一

毎月最終金曜午後 8:05～

当事者の皆さんと一緒に作る番組です

月に1度チャンネルを合わせてみませんか

あなたが今、考えていること。感じていること。つぶやきたいこと・・・など

全国の当事者のみんなと一緒に考える そんな番組です！

# 桃の会 9月の活動



## 9月はミニグループトーク、当事者スペース、テーマトークを行います

年々異常気象の影響が色濃くなっていくように感じます。

この長引く残暑も、大雨による水害も、ハワイでの自然火災も、自然の脅威に人間の無力さ改めて感じさせるものです。自然との共存のバランスが大事ななのでしょう。

当たり前が当たり前でなくなったことを受け入れざるを得なくなってきました。

今月のミニグループトークはグループに分かれてのトークのみを行います。

様々な家族のお話を聞きたい。そして話したいと思われている方もいらっしゃると思います。

話すことは自分と向き合い「自分を知る」機会になります。まだ残暑厳しい折ですが是非お出かけ下さい

▶ **ミニグループトーク 9月17日(日) 10時～ 甲府総合市民会館 会議室4 一家族¥500 当事者無料**

### テーマ 「人との関係づくりについて」

ひきこもるということは人との関係の遮断を意味すると思います。しかし人との関係づくりは生きていく限り続き、私たちはその関係性の中でこそ生きていけるのだと思います。それぞれの環境の中であなたは周りの人たちとどのような関係を築きながら又は築こうとして生きていますか。親子の関係、職場での関係、友だち関係、様々な人との関わりの中で「気を付けていること」「学びを得たこと」「子供にこれだけは伝えておきたい」と思うことはありますか。皆さんの日頃のエピソードなども交えながらのトークになればと思います。

### お仕事情報

ブドウの収穫作業で収穫し箱に詰める作業です。9月中のお仕事で朝7時からお昼までです。

詳細は相良農園までお問い合わせください。 甲府市七沢町 相良農園 090-8875-7889

◆ 10月の予定	ミニグループトーク	10月15日(日) 10時～	ぴゅあ総合
	当事者スペース	10月15日(日) 13時～	ぴゅあ総合
	テーマトーク	10月7日(土) 13時～	福祉プラザロビー



 **募集しています!!** 皆さんの声を募集しております! 日々の想いやちょっとした出来事など大歓迎です。どうぞお気軽に桃の会事務局のメールアドレスまたはFaxでお送りください。お待ちしております。

お問い合わせ 桃の会事務局 e-mail / [meri-sannokuni@softbank.ne.jp](mailto:meri-sannokuni@softbank.ne.jp) 090-6190-8677 篠原  
TEL&FAX 0266-78-3742 篠原 / Tel 0551- 47- 4040 080-9400-4187 井口